

＼あなたのアイデアでデータの可能性を広げよう／

たいとうアイデアソン 2024

～データの力で、上野・浅草をより快適に！～

実施報告書
台東区 企画財政部情報政策課

開催概要・目的

- 01 アイデアソンについて
- 02 オープンデータについて
- 03 実施日程
- 04 テーマ・目的

P3
P4～5
P6
P7

アイデアソン実施結果

- 05 当日スケジュール
- 06 総合ファシリテーター紹介
- 07 各班提案内容
- 08 西川 亮 氏 講評

P9～10
P11
P12～19
P20

アフターセッション実施結果

- 09 アフターセッションの概要
- 10 提案内容

P22
P23～26

各種データ・台東区の取り組み

- 11 アイデアソン アンケート結果
- 12 参加者概要
- 13 台東区のオープンデータに関する取り組み

P28～32
P33～35
P36



アイデアソンとは

「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、特定のテーマについてグループ単位でアイデアを出し合うイベント

たいとうアイデアソン2024の目的

- ①台東区の地域課題を解決するため、オープンデータ等のデータを活用した**新たなアイデア**や**サービスの創出**
- ②オープンデータの拡充・利活用推進



オープンデータについて

「オープンデータ」とは

自治体や事業者等が保有するデータのうち、誰もがインターネット等を通じて容易に加工、編集、再配布等できるよう、公開されたデータ

「オープンデータ」の3要件

1. 営利、非営利問わず二次利用可能
2. 機械判読に適している
3. 無償で利用できる

「オープンデータ」の効果

1. 官民協働による地域課題の解決、経済の活性化

例: 官民協働による公共サービスの提供、新たな民間サービスの創出等

2. 業務の高度化、効率化

例: データを用いた政策立案等

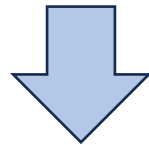
3. 区政の透明性、信頼性の向上

例: 客観的なデータを共有して、対等な立場で話ができる

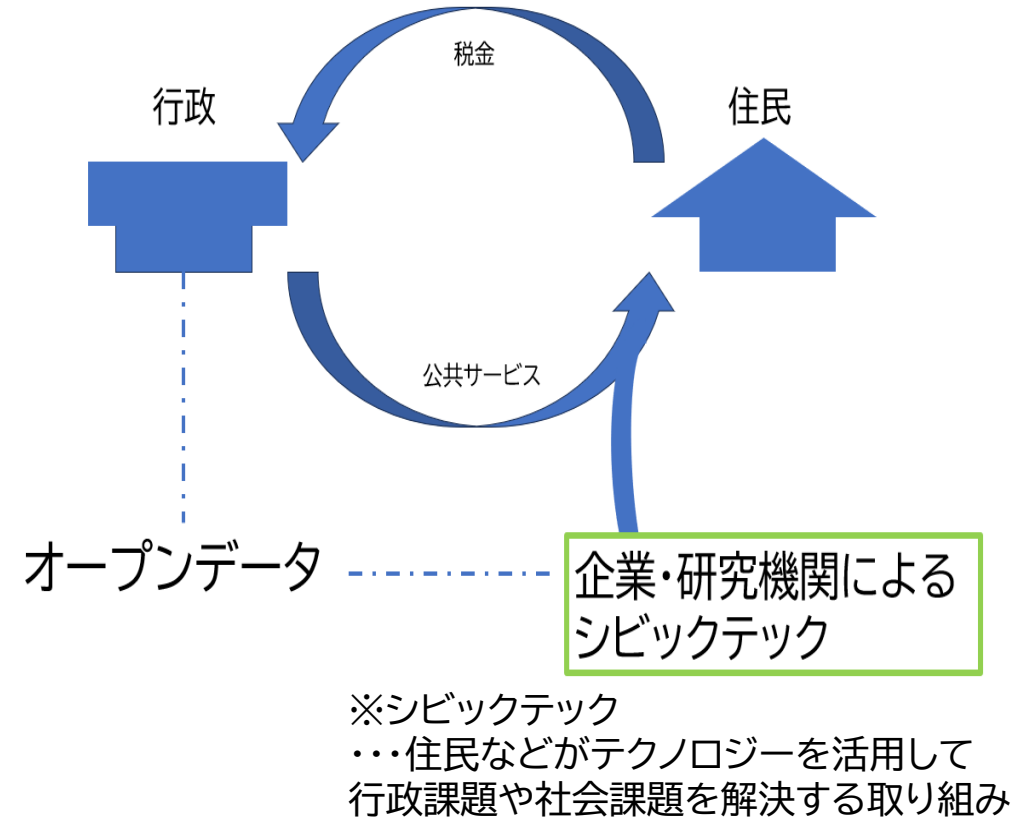


なぜ、オープンデータを公開するのか？

少子高齢化などの社会環境の変化
＝行政だけで地域の課題に対応していくことが
難しくなりつつある



オープンデータを公開することで、
企業・研究機関等、**多様な主体との協働**を促し、
新たなデジタルサービスの創出により
地域課題の解決に寄与





たいとうアイデアソン2024

開催日時 : 令和6年12月14日(土) 10:00~17:00
開催場所 : 台東区役所本庁舎 10階大会議室
参加者 : 22名



アフターセッション

※「たいとうアイデアソン2024」で**出たアイデア**のブラッシュアップや、
実現に必要なデータの中身の検討

開催日時 : ① 令和7年2月14日(金) 19:00~21:00
 : ② 令和7年2月27日(木) 19:00~21:00
開催方式 : Zoomによるオンライン開催
参加者 : ①5名 ②3名

テーマ・目的

テーマ 「データの力で、上野・浅草をより快適に！」

目的

地域が抱える課題＝上野・浅草の回遊性の向上

上野 杜(上野恩賜公園)とまち(アメ横等)の心理的・物理的ハードル

浅草 浅草寺・雷門周辺など特定の場所・時間に人が滞留

こういうサービスが
あったら…

解決案を考える

解決案の創出

異なるバックボーンを持つ多様な人が集まり、
データを活用した取り組みについて、自由に
アイデアを出し合う

回遊性の向上につながる
新しいサービスや仕組み

解決案の実現に役立つ
オープンデータの拡充

The background image shows a workshop or meeting room. Several people are standing around tables, looking at documents and a large screen in the background. The room has a red carpet and wooden walls. The text is overlaid on the top right of the image.

令和6年12月14日(土)実施 たいとうアイデアソン2024 実施結果

当日スケジュール 午前の部

10:00 開会(主催あいさつ・アイデアソン概要・オープンデータの説明)

10:10 総合ファシリテーターあいさつ(趣旨説明・本日の流れの説明)

10:25 知識のインプット(台東区所管部署より)

10:55 グループ内自己紹介・役割分担

11:05 グループごとのエリア(上野・浅草)決め

11:10 情報収集・参加者個人でのアイデア出し

11:40 グループ内ディスカッション

12:00 昼食休憩



今回のテーマである回遊性の向上について、
グループごとで取り扱うエリアを
上野・浅草の2つのエリアに分けました

- 13:00 午後の部スタート
- 13:30 各グループ進捗状況報告①
- 14:40 各グループ進捗状況報告②
- 15:30 発表に向けたまとめ
- 16:20 アイデア発表(発表3分・質疑応答3分)
- 16:45 総合ファシリテーターからの講評
- 17:00 閉会





西川 亮 氏 立教大学観光学部 観光学科 准教授

行政による都市計画や、観光政策と住民による観光まちづくりの双方の観点から、地域をベースとした観光研究に取り組んでいる。

現代の観光地が抱える様々な課題に関する研究に加えて、過去の歴史から知見を得て、それを次の時代へと活かす視点を大事にしながら、地域固有の資源を活かして行政や住民と協働で行うまちづくりにも関わる。

アイデア名 (仮称)「めぐりんウォークプラス」

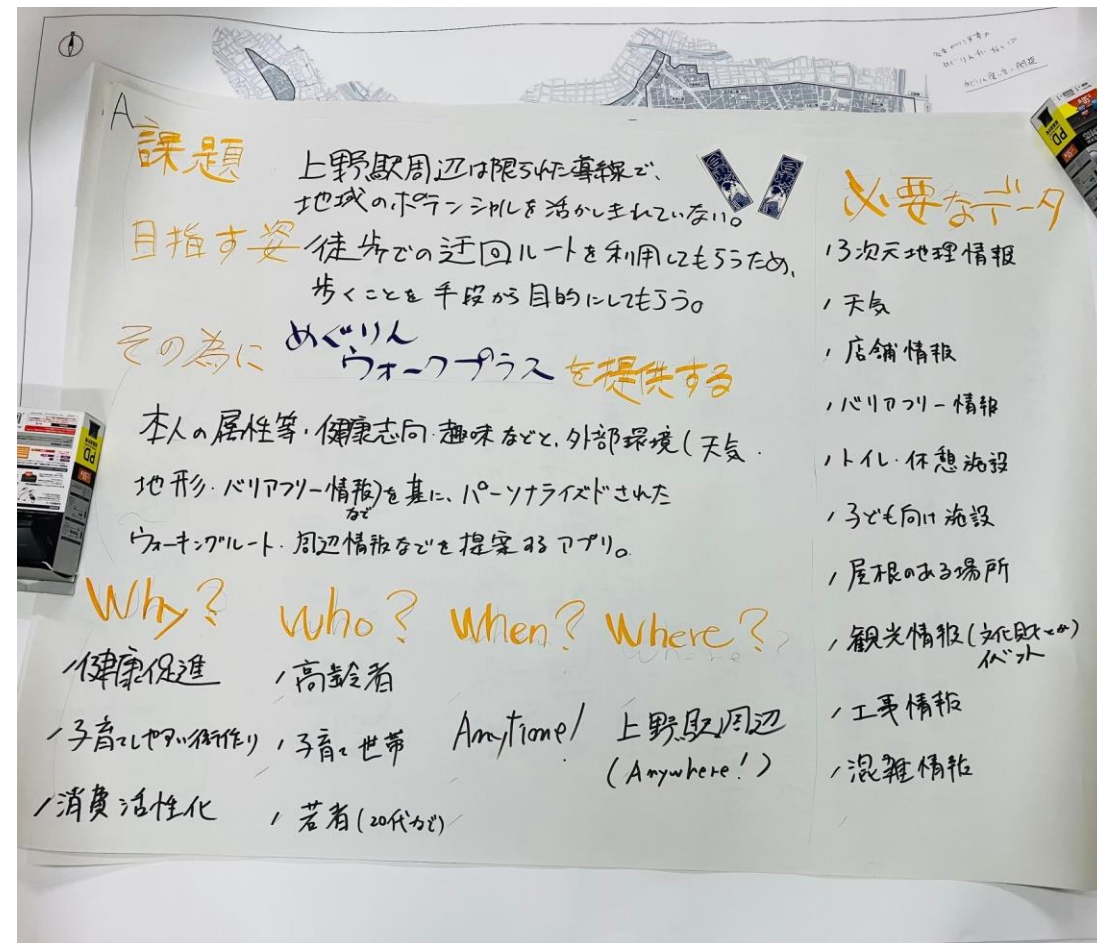
本人の要望や属性、趣味や天気等の情報をもとに、個人ごとに歩きたくなるウォーキングルートを提案するアプリを提供

課題

上野駅周辺は上野公園前くらいしか導線がなく、地域のポテンシャルを活かしきれていない。
混雑に伴う歩きにくさであったり、徒歩で利用されないルート上のお店はお客さんが来ない。



歩くことを手段から目的にし、回遊性を高める



提案内容及び必要なデータ

提案内容(アプリの概要)

個人の属性や「今日は一万歩歩きたい」、「カフェに寄りたい」という希望、天気(例:雨の日は屋根が多いルートを選択)、地形、バリアフリー情報等、あらゆる観点から掛け合わせて個人ごとに歩きたくなるようなウォーキングルートを提案。

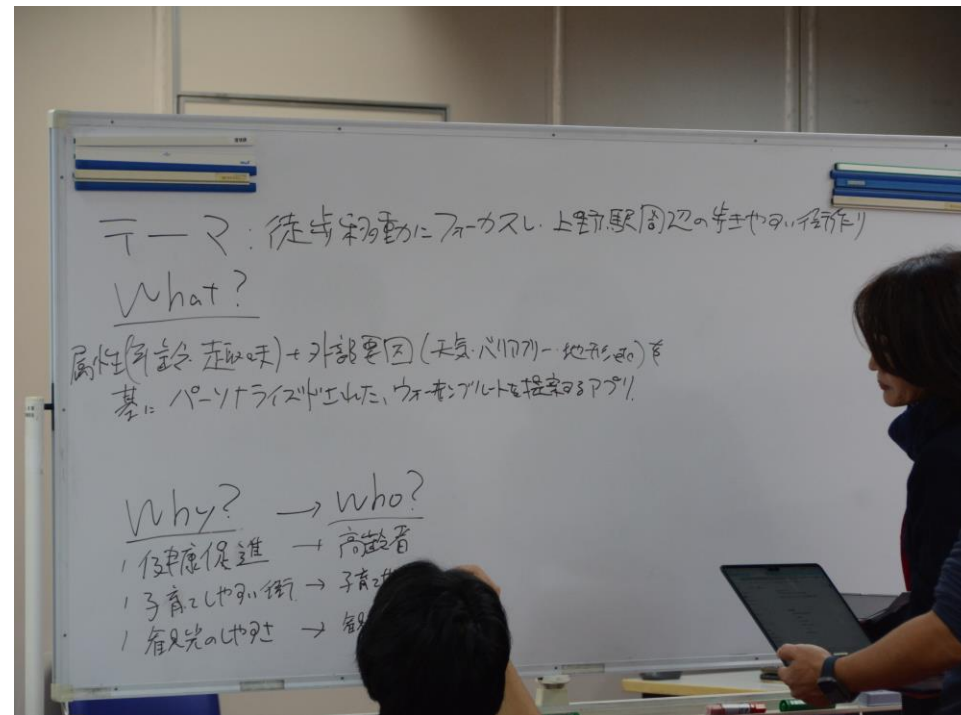
今まで自分で考えたこともなかったようなルートを提案してもらうことで、移動が手段から目的になり、今まで使っていないルートを歩くようになる。

対象者・目的

- ・高齢者…健康促進
- ・子育て世代…ベビーカーでも移動しやすい
- ・若者…消費活性化

必要なデータ

三次元地理情報、天気、店舗情報、バリアフリー情報、トイレ情報、休憩施設、子供向け施設、屋根のある場所、観光情報(文化財・イベント等)、工事情報、混雑情報

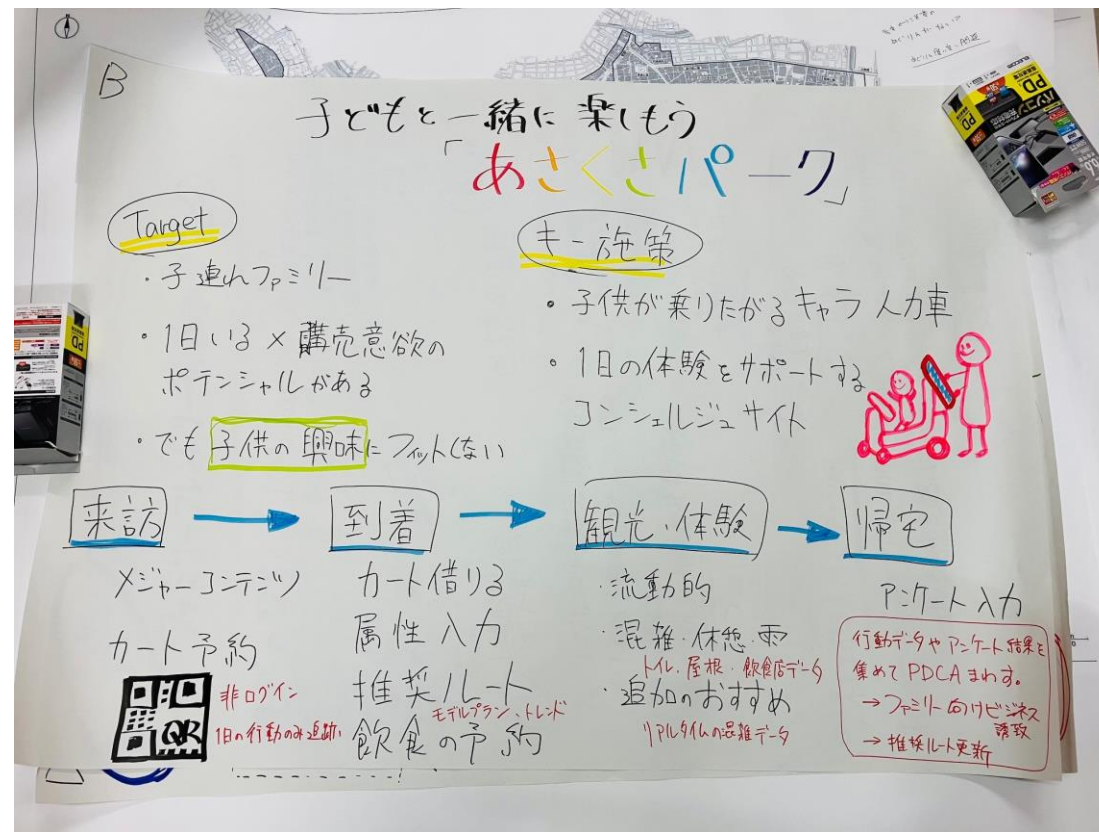


アイデア名「子どもと一緒に楽しもう『あさくさパーク』」

1日の体験をサポートしてくれる、コンシェルジュ機能がついたタブレットを子ども用カートに配備して、子どもと一緒に浅草を楽しめる体験を提供

課題

子ども連れで浅草を訪れて楽しみたいというニーズはあるものの、子どもの興味にうまくフィットしにくく、滞在時間が短くなってしまう。



提案内容及び必要なデータ

提案内容(アプリの特徴)

アプリは会員登録を不要とし、その場限りで使ってもらうものとする。端末が一日中動きをサポートし、利用者の特定はしないが、1日の動きはウォッチする。

具体例

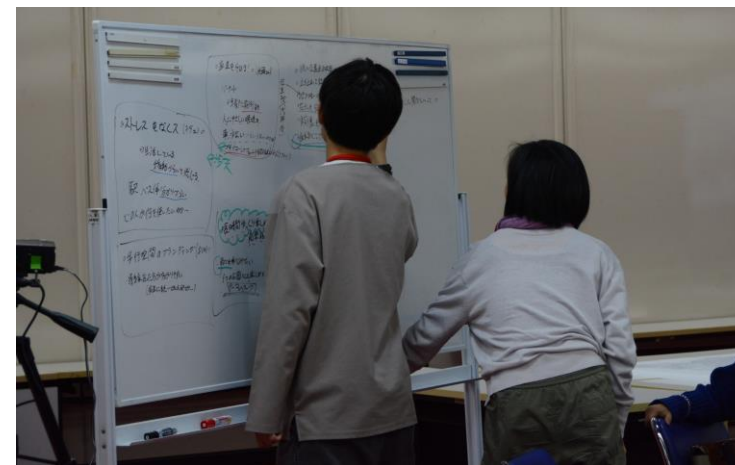
カートを予約し、浅草に着くと目に付くところにカートが置いてあるので、タブレットに年代、性別等の属性情報を入力。その後推奨ルートが出てきて、飲食店の予約やファミリーで入れる飲食店も早く予約できるようになる。また近場の情報や、現在混雑していない店舗、トイレの場所等、様々な情報を流動的に提供。

また、道端でやっている大道芸のイベント情報のような、あったら嬉しいと思う情報について、詳細な時間をタブレット上で表示できるようにするといった、既存のコンテンツとの連動もしやすくなる。

謎解きイベントやスタンプラリー等、街のあらゆる場所に来てもらうものとも相性が良い。

必要なデータ

混雑状況、トイレ、休憩場所、飲食店情報



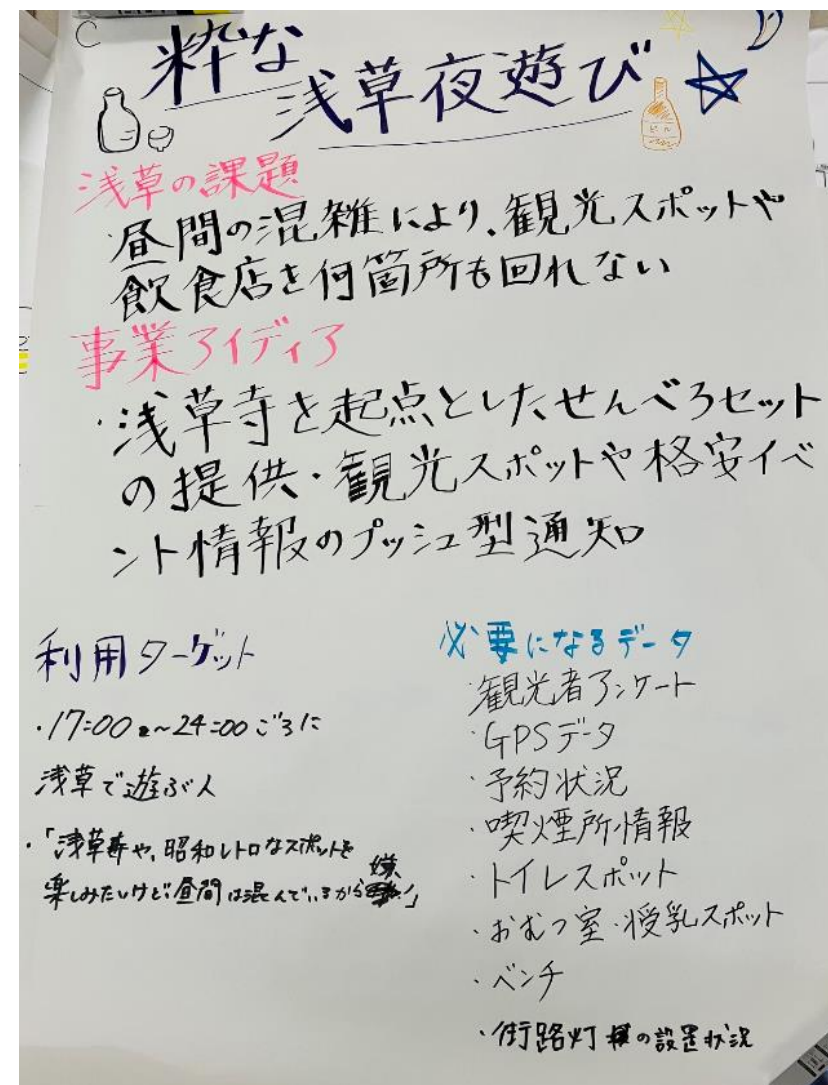
アイデア名「粋な浅草夜遊び」

浅草寺を起点としたせんべろセットの提供・
観光スポットや格安イベント情報の
プッシュ型通知

課題

昼間の混雑により、観光スポットや飲食店を
何箇所も回れない。

アンケートの結果、浅草の混雑に不満を持ってる方
が一定数いる。



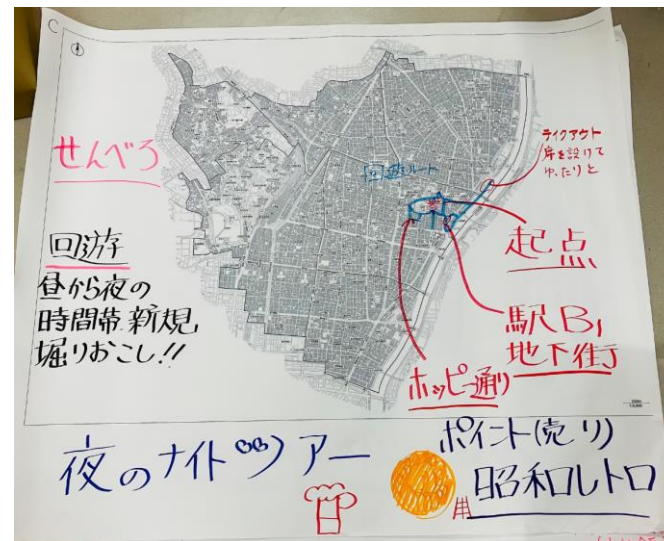
提案内容及び必要なデータ

提案内容

浅草寺を起点として、せんべろルートを作り、隅田川の方に誘導していくようなルートを検討。飲み屋の通り(ホッピー通り、浅草駅地下街、隅田川沿い)ができ、横の動線として伝法院通りを使って観光したり、写真撮影スポットがあったり等、浅草寺を起点にぐるぐると回るような回遊ルートを作成。また、観光スポットや格安イベントの情報などをプッシュ型通知する。

必要なデータ

観光者アンケート、GPSデータ、店の予約・混雑状況、喫煙所の情報、トイレ情報、オムツ室、授乳スポット、ベンチ、街路樹の情報



アイデア名

「杜から街へ ファミリーフレンドリーの街 うえの」

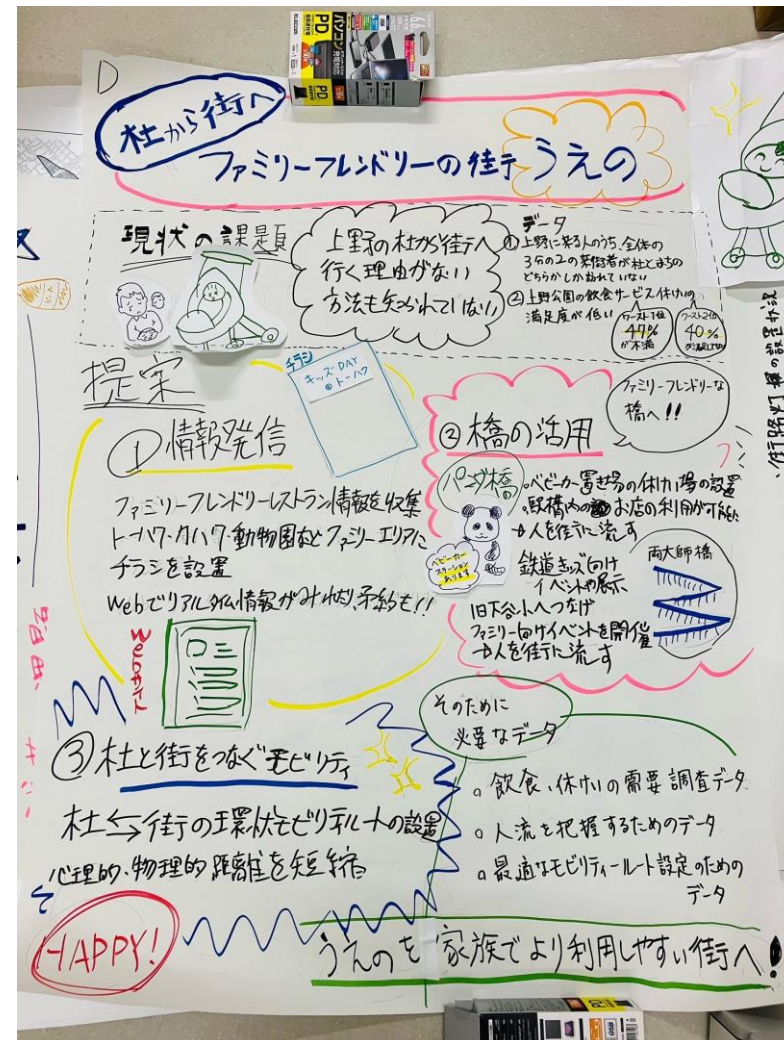
情報発信・橋の活用・モビリティルートを設置
することで、家族で利用しやすく、移動しやすい
街を作る

課題

杜から街へ行く理由がない、方法も知られていない
上野公園の満足度調査では、
飲食サービス、休憩所の満足度が低い
と回答する人が上野公園の利用者で最も多い。



杜から街へどう回遊させるか



提案内容及び必要なデータ

提案内容

①ファミリー向け情報誌の配布とWebを活用した情報発信

ファミリーフレンドリーなレストランやカフェの情報を収集し、東京国立博物館、科学博物館や動物園などのファミリーが集まりやすいエリアに情報誌を設置。また、QRコードなどを用意し、Web側でもリアルタイムの混雑情報収集、予約などができるようにする。

②リアル動線としてのパンダ橋・両大師橋の活用

パンダ橋にベビーカー置き場のある休憩所などを設置し、駅構内のお店も利用できるようにすることで、休憩したい人、食べたり飲んだりしたい人を呼び込む。両大師橋は橋の下に線路が通っているため、そこに関連して子ども向けの鉄道イベントや展示を行う。

→パンダ橋・両大師橋に人を呼び込むことで、橋を経由して街へ行く導線を作る。

③杜と街を繋ぐモビリティルートの設置

観光客とファミリー層の動線を分離した環状モビリティルートを設置することで、家族連れが利用しやすい上野を目指す。



必要なデータ

飲食・休憩の需要調査データ、人流を把握するためのデータ、最適なモビリティルート設定のためのデータ



現代はデータが溢れている時代ですが、**何をするためにデータがどう使えるか**という発想が大事です。部屋の中での議論だけではなく、街をじっくり観察することが重要となります。

今回は「回遊をさせる」ことについて、「地域側・産業側からどうやって人を動かすか」という議論になっていましたが、重要なのは、**「回遊する側の人にとってどういうメリットがあるか」**です。

こういった議論は地域にとってこういったメリットがあるかを念頭に考えがちですが、それだけでは人は動かず、むしろ**お客さんにとってこういったメリットがあるか、価値体験ができるかが前提にあり、それを実現させるために地域で何をできるかが重要**となります。

令和7年2月14日(金)・27(木)実施
アイデアソンアフターセッション
実施結果

B R U S H U P



アフターセッションの目的

アイデアのブラッシュアップや使用するデータの中身の検討など、アイデアをより具体化・深掘りすることを目的とする。

アイデアソンで提案されたアイデアのうち、アンケートを実施して希望が多かったC班とD班のアイデアを取扱い、ディスカッションを実施。

実施内容

2月14日(金) : 「杜から街へ ファミリーフレンドリーの街 うえの」(D班アイデア)

2月27日(木) : 「粹な浅草夜遊び」(C班アイデア)

開催形式(各日2部構成)

第1部 : 提案されたアイデアのブラッシュアップ

第2部 : アイデアに関するデータの内容についての検討

Zoomによるオンライン開催

2月14日(金)実施 アイデア「杜から街へ ファミリーフレンドリーの街 うえの」

アイデアのブラッシュアップ

①情報発信について

ファミリーがどういう条件でお店を選ぶかといった視点から、どんな飲食店があるか、子ども用の椅子やメニューがあるか等、子どもの連れて行きやすさが分かる情報が必要。

②橋の活用

パンダ橋からは街を見下ろすことができる。また、グーグルマップは任意の場所にピン留めをし他人とも共有できる機能があるため、パンダ橋からの風景とマップを重ね、ピン留めされた店の情報を見れるようにすると良い。

③モビリティルート

まずモビリティの需要がどのくらいあるか把握する必要がある、そこからどこにどれだけの台数を設置するか等をデータをもとに検討していく必要がある。

必要なデータ

- ① 子ども用メニュー・椅子・食器、ボックス席の有無、平均待ち時間、リアルタイム空席情報、平均価格
- ② パンダ橋・両大師橋の通行量、知名度、店舗位置情報
- ③ 需要予測情報、ルート情報、モビリティの充電スポット情報

ファシリテーター 西川氏 講評

杜は基本的に歩行者のみで、車が入ってこない面で安全であり、資源が豊かで、広くてゆったりできるという、子ども連れに良い環境があり、逆に街は人が多く、道が狭く、混雑しています。

杜と街を天秤にかけたときに、**杜にはないメリット**や**杜を上回るもの**を街側に作っていけば、人が実際に動いていくので、**そういった情報を発信**していくべきだと感じました。

また、「**上野というのはファミリーフレンドリーな街**である」というイメージを作り、発信していくことが重要なのではないかと感じました。

少子高齢化という時代で、子育て世代に向け、子を育てやすい環境を作っていくことは、広い意味で言うと**地域の価値を高めていく**ことに繋がると思います。

2月27日(木)実施 アイデア「粋な浅草夜遊び」

アイデアのブラッシュアップ

○利用者のペルソナ設定

参加者からの意見の一部として、

ターゲット：日本人の20～30代の若者、関係性は友人、人数は5～10人程

実施内容：ハッピーアワーや曜日ごとのキャンペーン、イベントの実施、
地域キャラクターやご当地グルメとのコラボ等

モデルルート：浅草寺を起点とし、せんべろができる飲食店のエリア(ホッピー通り→浅草地下街→隅田川沿い)を巡り、横の導線として伝法院通りを使った観光や写真撮影スポット等を回遊するルートといったものが挙げられた。

必要なデータ

- ①エリア・ルート情報 → 内訳としては人流データ、交通手段等
- ②店舗情報 → 開店・閉店時間、滞在時間、消費金額等
- ③その他の情報 → トイレ、雨天時の営業スポット・実施イベント等

ファシリテーター 西川氏 講評

モデルルートとしては、「せんべろ」で何軒か回った後で、酔いを覚ますために浅草寺周辺を歩かせるようなルートがあっても面白いかもしれないですね。

私は以前スペインのサンセバスティアンに行きましたが、言葉の壁があったため、お店はガイドと一緒に去了。外国語を話せるガイドとのマッチングみたいなものがあれば、日本の大衆居酒屋に行きやすくなり、より交流が増えて、文化も楽しめるのではないかと感じました。実際にこういうサービスが、アプリか何かしらの方法で気軽に使えるような仕組みができると良いなと思いました。

誰が中心となってやるかという話はこれからの課題かなと思いますが、企業もビジネスチャンスとして感じてくれたら、いろんな飲食店を取りまとめて、進めていくことができるかもしれませんね。

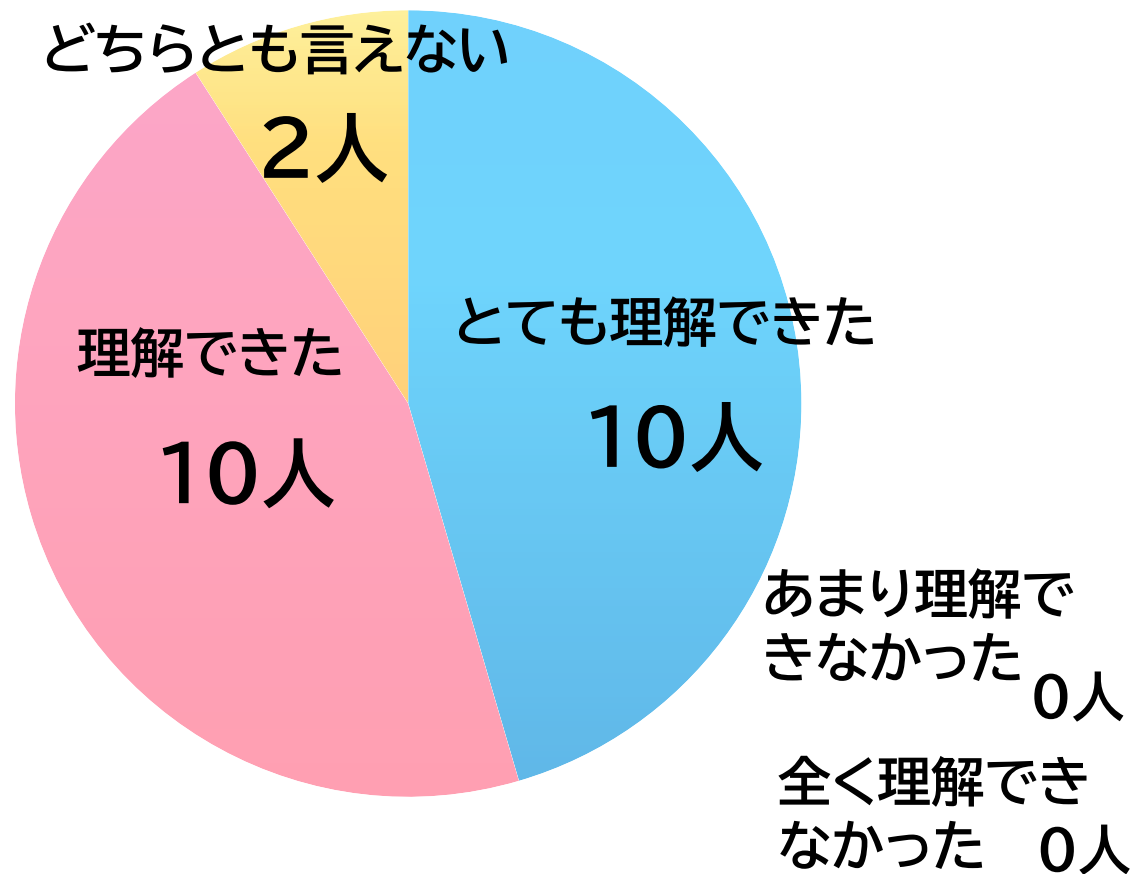
各種データ・台東区の取り組み



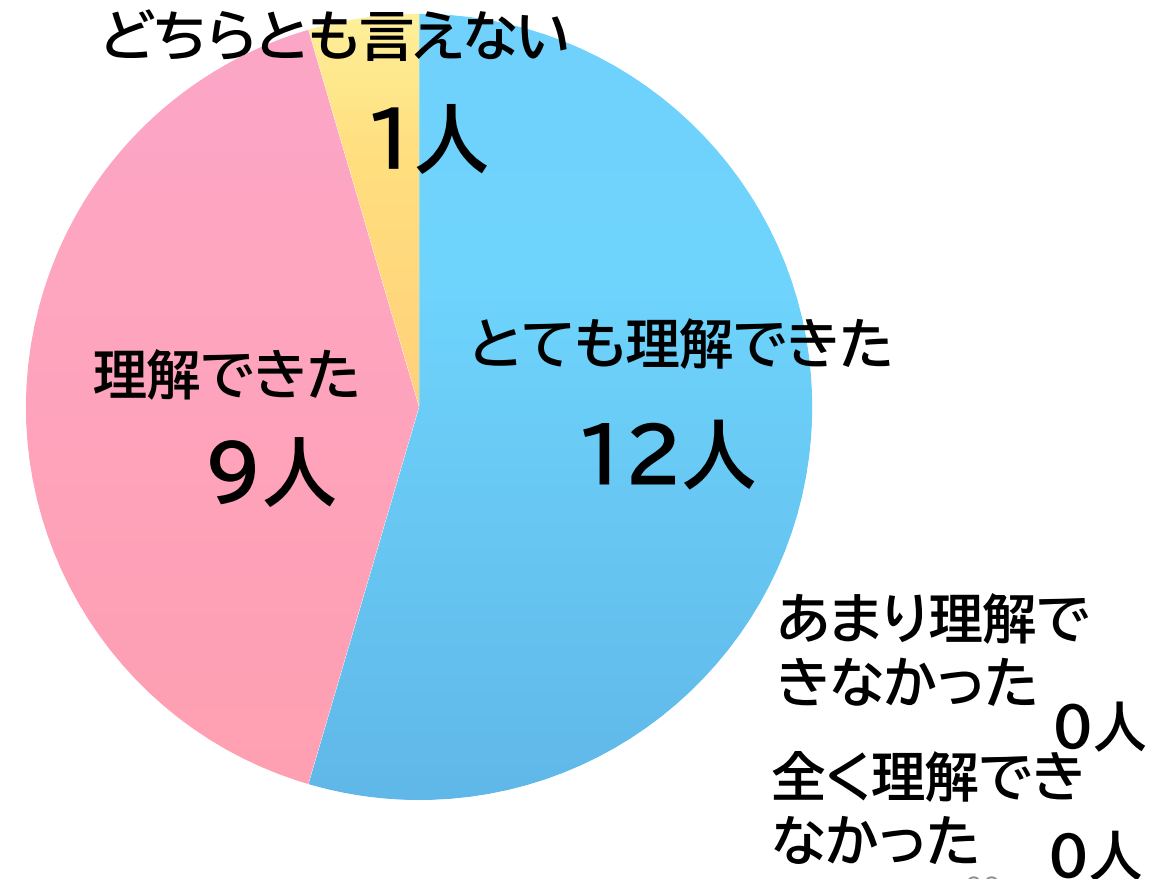
11

アイデアソン アンケート結果

Q、イベントの趣旨や目的は理解できたか



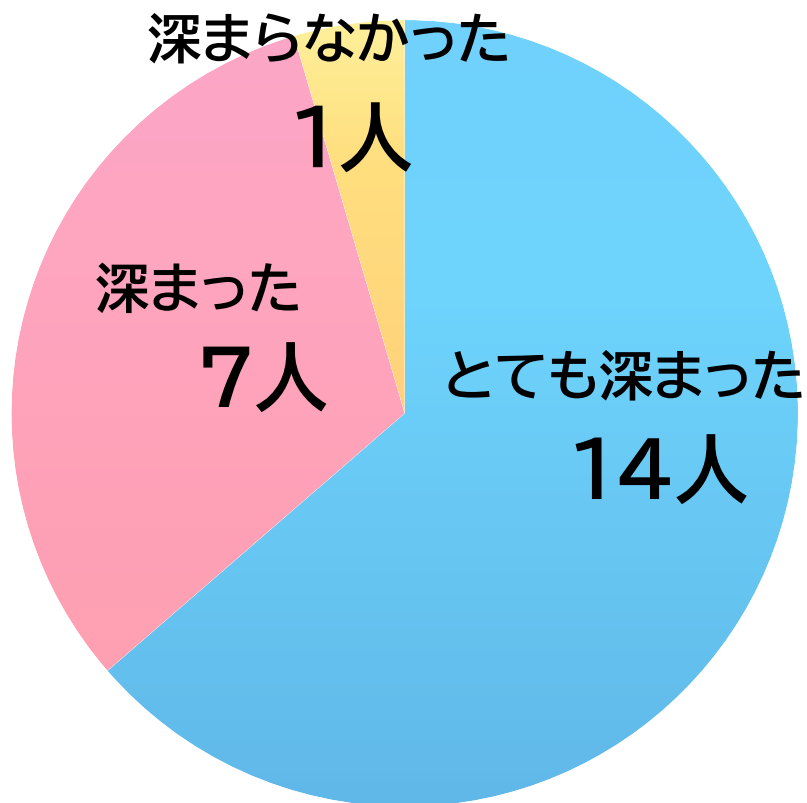
Q、総合ファシリテーターや区職員の説明は理解できたか



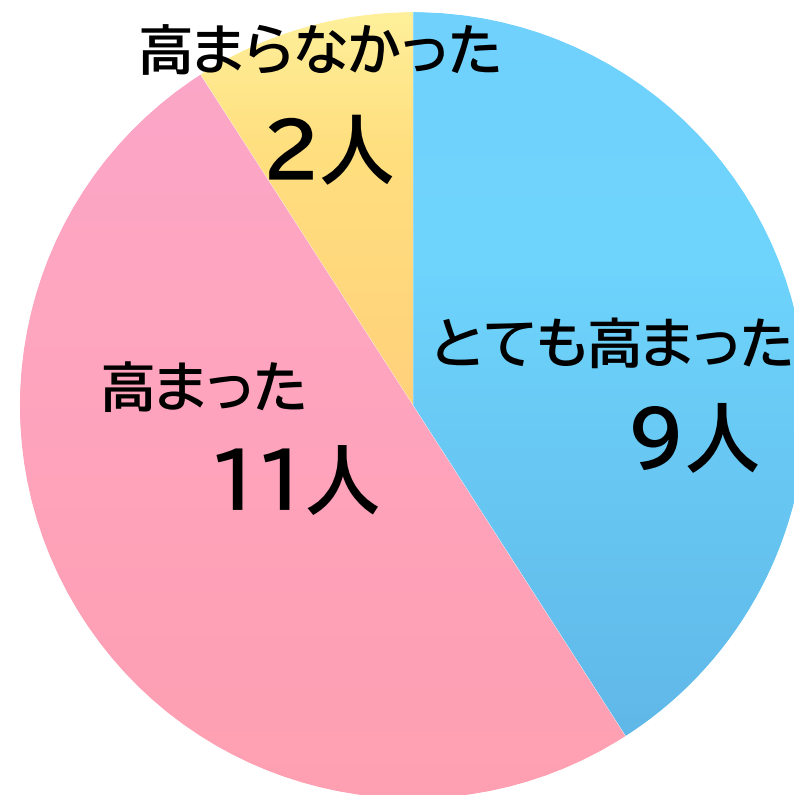
11

アイデアソン アンケート結果

Q、イベントを通して「上野・浅草エリアの地域課題」について理解は深まったか

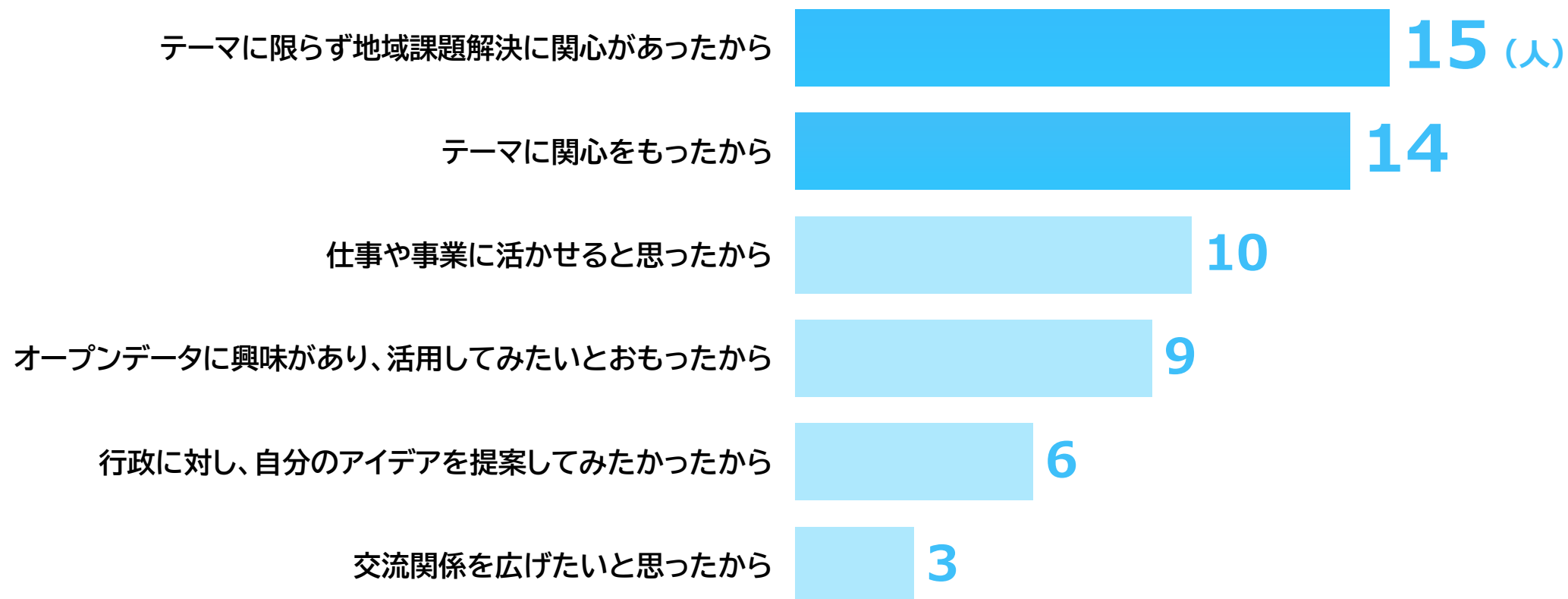


Q、イベントを通して「オープンデータ」に対する興味・関心は高まったか



アイデアソン アンケート結果

Q、なぜ、本イベントに参加しようと思ったか(複数選択可)



アイデアソン アンケート結果

本イベントを通して特に参考になった・印象的だった内容

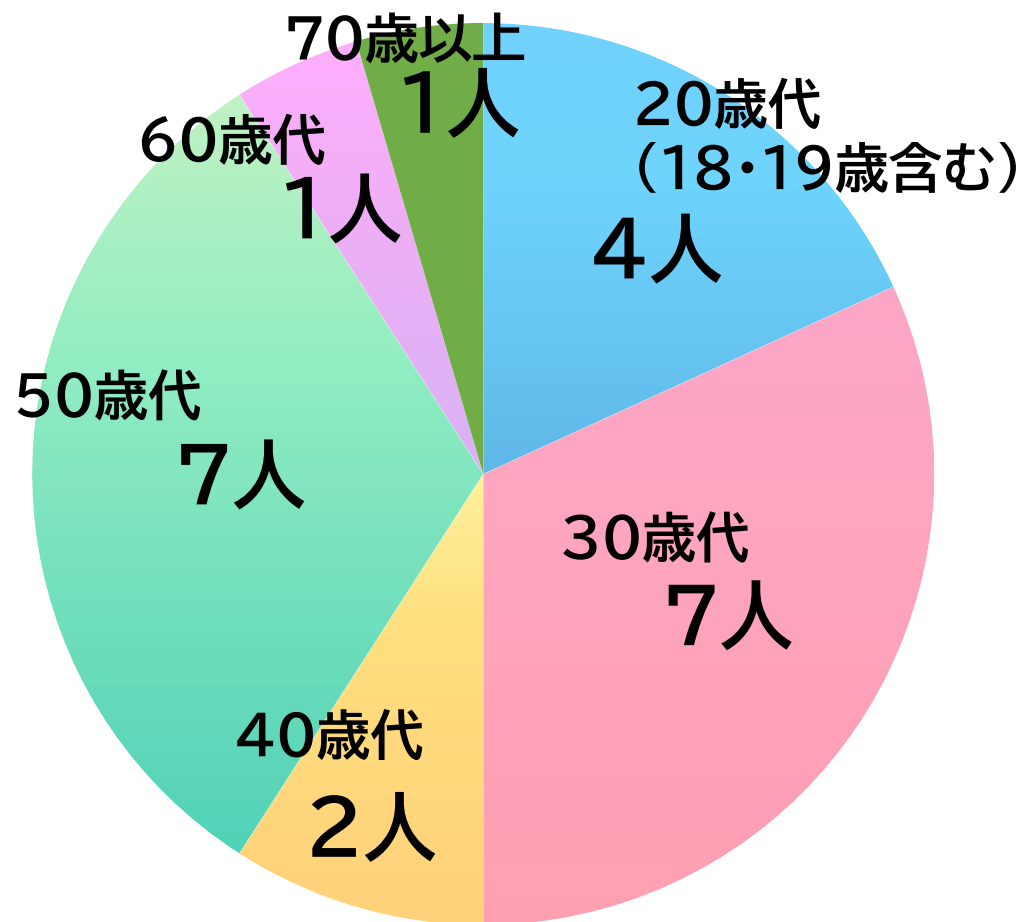
- ・地元住民の参加者が多く、生の声を聞くことができ本当に良かった。私自身、観光の街というイメージがあったが、やはり、地元住民にとっては厄介な点もあることが伝わったので、生活と観光の両立に向けて頑張りたい。
- ・台東区ですでにサードパーティデータ購入やデータ取得のための取り組み(GPS端末配布など)していることがわかり、それで課題が明確になってきているというのも分かった。リアルな改善提案のワークも大変有益だった。
- ・自治体の有するインフラを活用することが、社会課題解決に向けて大きく寄与するということの理解が深まった。
- ・上野・浅草の来訪者周遊状況についてデータや取組を知ることができ、改めて理解が深まった。
- ・個人としても感じている浅草の問題など、区としても課題に感じていて取り組みを行おうとしていることを初めて知った。地域社会への関心が高まる良い機会になった。

参加者の意見・感想

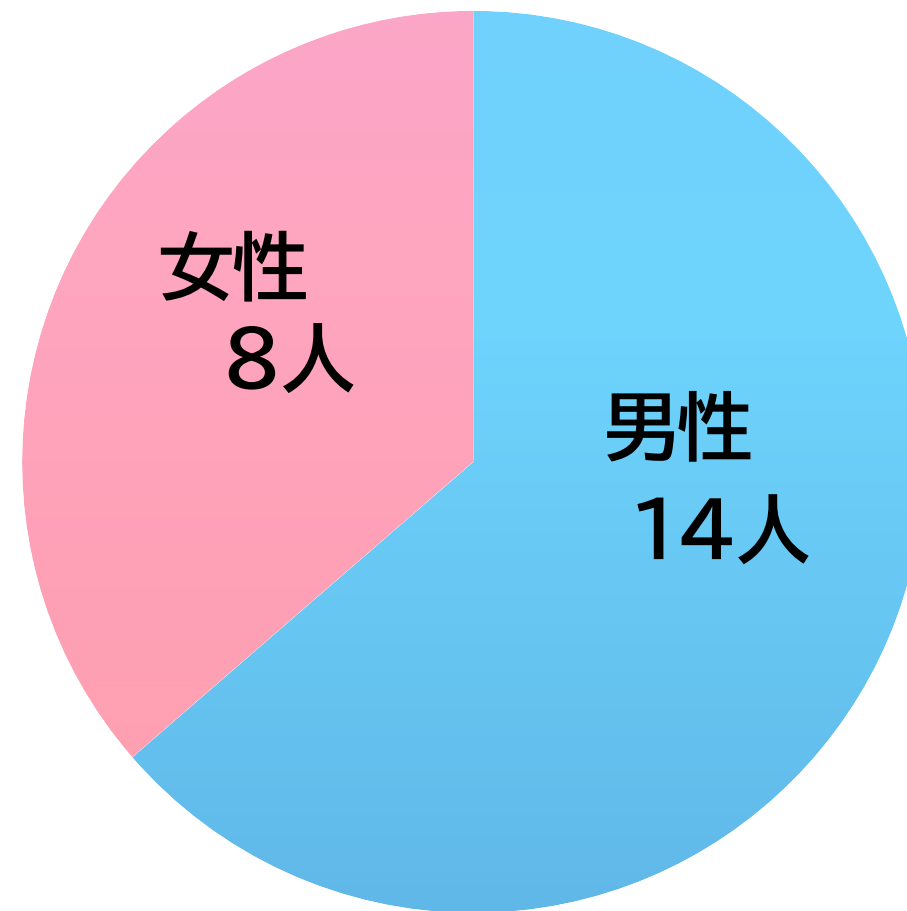
- ・アイデア出しを活性化させるアイテム(ホワイトボード、地図、パンフレット等)によって活発で発想力豊かな議論を交わすことができた。職業も年代もバラバラなチームでのディスカッションは新鮮で固定概念から離れることができた。
- ・行政のオープンデータ活用については全く知識がなく、台東区がオープンデータを用意し、それを民間企業が活用する、という仕組みは大変勉強になった。
- ・事前、事後やはり会議室だけではなく現地調査、検証も必要では？
- ・私が色々参加させて頂いたまちづくりのセミナーの中では一番良かった。
- ・年齢も職業も違うさまざまな立場の方がいらっしゃったことで議論が活発になった一方、理解のレベル感が異なり話を進めるのが難しい場面があった。

参加者概要

年齢層

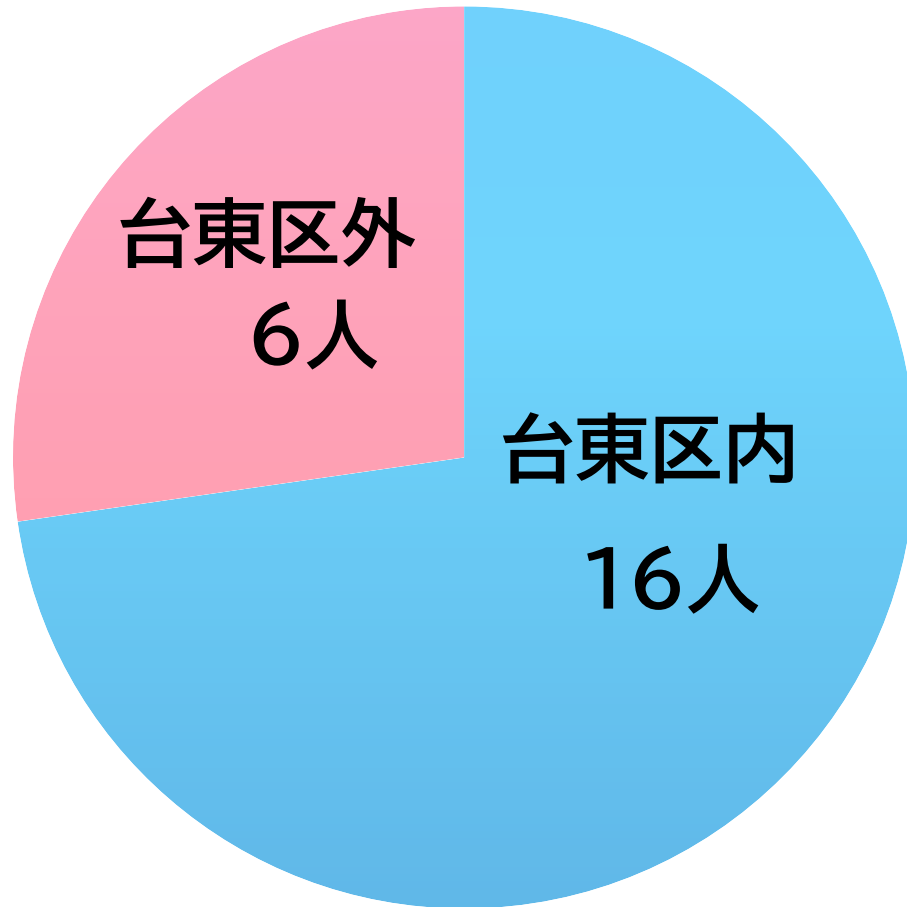


性別

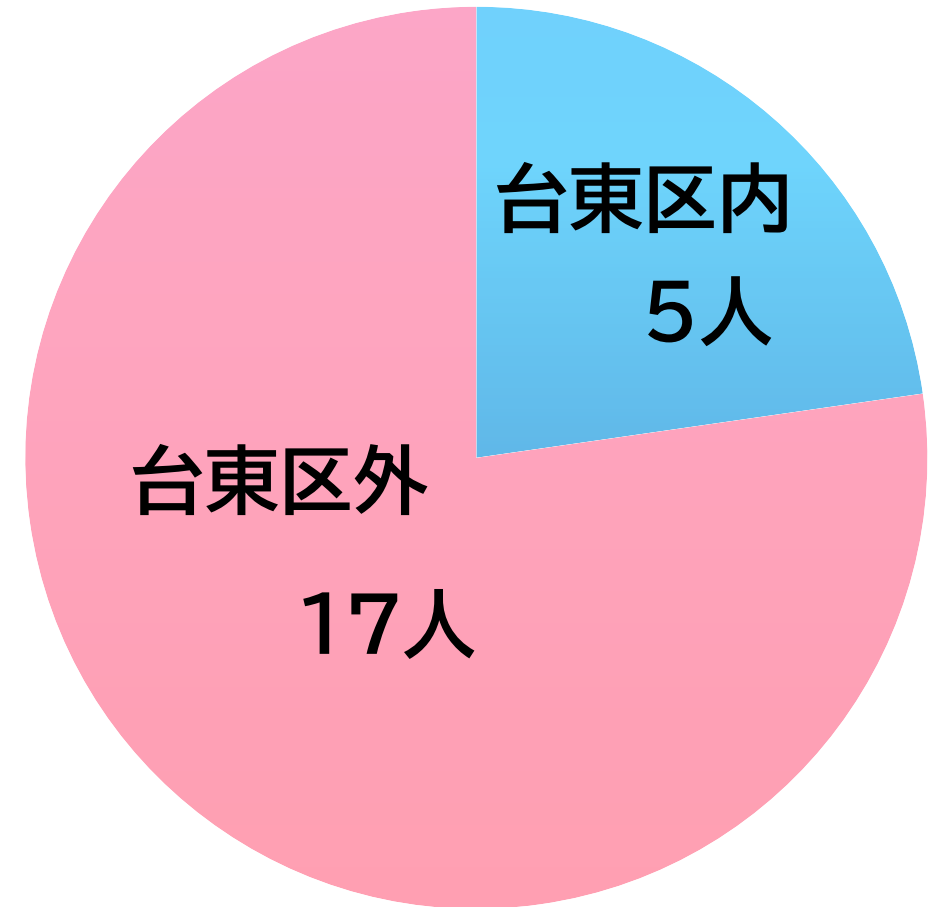


参加者概要

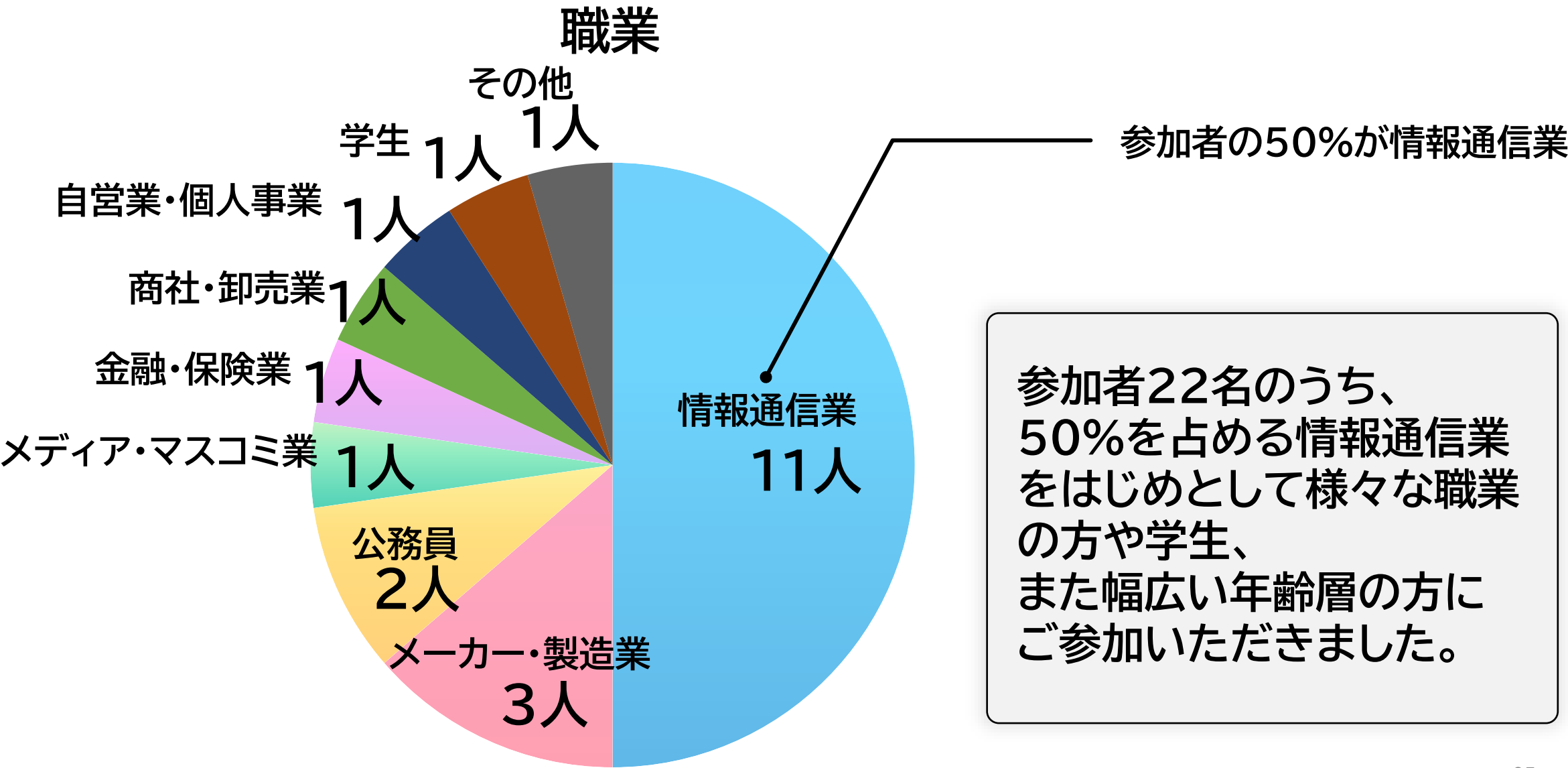
住まい



勤務先



参加者概要



台東区のオープンデータに関する取り組み

台東区では、アイデアソンで提案された内容もふまえながら、引き続き活用しやすいオープンデータの拡充に努め、地域課題の解決に繋げてまいります。

現在、台東区ホームページにて区のオープンデータを公開しております。

詳しくは右記二次元コードよりご覧ください。

※ニーズを把握し、オープンデータの充実を促進するため、データを利用される際には、「**オープンデータ利用アンケート**」への回答にご協力ください。



区公式HP

The screenshot shows the 'オープンデータ' (Open Data) page on the Taihoku City Official Website. The page features a navigation bar with various city services and a main content area with several links and sections.

- ナビゲーション:** 暮らし・手続き, 子育て・教育, 生涯学習・図書館・スポーツ, 健康・福祉, 文化・観光・産業, 防災・防犯, まちづくり・住宅・環境, 区政情報・施設案内.
- オープンデータセクション:**
 - あなたのアイデアでデータの可能性を広げよう! 「たいとうアイデアソン2024」開催【申込受付を締め切りました】
 - アンケートについて
 - オープンデータについて
 - 台東区行政資料集
 - 子育て・教育
 - 健康・福祉
- オンラインサービス等:**
 - 電子申請
 - 台東区公共施設予約システム
 - 電子調達サービス(電子入札)
 - オープンデータ
- 厳選メニュー:**
 - 子育て・若者支援
 - 高齢・障害福祉
 - 健康づくり
 - 観光
- よくある質問**